

左方下部に彦四郎・極印と分替する。縦三寸三分、横三寸一分、又は縦三寸五分、横二寸八分、重さ四十三匁。

(十八)上字竿銀一棒状で、周圍に縦に三列の小星があり、上部一ヶ所に上字がある。長さ二寸二分、棒の徑四分。所謂竹流しといふものはであらう。

(十九)上字圓銀一圓形で、その表面の周圍に小星を列し、上部に上字がある。圓の徑一寸二分。

(二十)花降切銀一稍長方形で、全面に圓内異字・角内座字・楕圓内寶印の極印を滿捺する。切銀はきりがねで、こまがねとも、灰吹銀ともいひ、隨意の大きさに切斷使用するものである。縦三寸九分、横二寸四分。

キンガタニ 金ヶ谷 石川郡水葉山の北方溪谷で、その水は隈川に流入する。

キンギンイレタテブギヨウ 金銀入立奉行寛文元年高田彌右衛門・中村新之丞・中村彌五作・山口彌五兵衛の命ぜられたのが始らしく、延寶元年には板津兵助、八年六月脇田小平が亦命ぜられた。元和の頃には四人居り、元禄末年よりは二人充となつた。

キンケイクウキヨク 金溪空玉 加賀藩祖前田利家の子菊姫の法號。詳しくは金溪空玉童女。

キンケンクウ 金劍宮 (一)總説—金劍宮は白山七社の一つで、石川郡河内庄鶴來に鎮座する。源平盛衰記卷廿九に、『金劍宮と申すは、白山七社の内妙理權現の第一の王子に御座す。本地は俱梨迦羅明王なり。』といひ。白山記に『金劍宮。寶殿拜殿講堂大日如來寶殿三重塔鐘樓荒御前札宮大行車乙劍。』又『金劍

宮、白山第一王子、本地俱利伽羅明王、非述男神御冠着上、衣、帶、銀弓金箭、金作御太刀ハカセ給。』と記されてゐる。この神靈は、白山の大御前と大女岳との間なる劍ヶ岳に鎮座する。故に劍の明神とも、つるぎの權現ともいうた。義經記卷七に、『其の日はつるぎの權現に參り給うて』とあるものはである。金劍の文字も古ヘツルギと訓んだとの説もあるが、是は信じ難い。又この社を八劍祠といふものがあるのは、全く訛傳である。境内には劍社・戸の池・牛石などがある。戸の池は加賀古跡考に明瑞水、俗に殿池とある。牛石は北時詣をした女の石になつたのだといひ、犢牛の如き形をしてゐる。古へ金劍宮には長吏も衆徒もあり、盛大な社であつたが、一向一揆跋扈以後全く衰へて、一時は宮守の百姓權之丞が劍を預る許りになつて居た。

(二)金劍宮の造替—金劍宮造替の事に關しては、亦白山宮莊嚴講中記録及び三宮古記に一二の傳へられるものがある。後醍醐天皇寛元二年金劍宮の寶殿を造替した。これは遠近の結縁によつて行はれたものである。後村上天皇興國四年(康永二)二月十日夜金劍宮に火あつて、堂宇多く延焼の難に罹つたが、神體は之を齋福寺に移すことを得た。因つて直に再建に着手し、六月一日早くも上棟の式を擧げ、この夜神靈還御あらせられた。稱光天皇應永三十三年金劍宮は又彼岸所から失火し、拜殿・正殿等が災に罹つた。後奈良天皇享祿四年閏五月若松・連谷(波佐谷)・山田・清澤等一向宗の諸寺は土民を率ゐて、小一揆超勝寺を討たが爲、超勝寺の據つた能美郡山内の諸口を塞いだ。この年七月本願寺の重臣

下間等は山内の徒を助ける爲に下り、阿佛坊澄祝法印を懇んで白山本宮に陣し、出で、火を清澤に放つたので、金劍宮・寺家・在家多く焼亡した。清澤は金劍宮と同じく劍心ツルギココロに在つたのである。

(三)金劍宮と白山本宮—金劍宮の位置は白山本宮に近く、しかもその勢力稍頽するに足つたから、時々衝突を免れなかつた。後醍醐天皇正中二年四月四日本宮の臨時祭に駿馬の儀を行つた。先例によれば、駿馬は金劍宮の指押を得ることになつてゐたが、今本宮の衆徒指に之を奉仕したから、金劍宮では之を難詰し、翌五日駿馬を奉仕した神人の下向を遂に要し、彼等を捕へて鬚を斬り、又馬尾を斷つた。本宮の衆徒怒つて金劍宮を襲ひ、奮闘已の刻より申の一點に及び、坊舎數十宇爲に焼夷せられ、互に死傷を出した。是に於いて兩宮各雄掌を上洛せしめ、朝廷の糾斷を求めたが、守護官樺家明の調停によつて、三年和を議し、同年五月以降の駿馬會は本宮衆徒のみの裁斷で行はれることになつた。又後村上天皇正平十八年(貞治二)五月廿一日本宮佛眼坊の仲間又次郎が、里中より登山せんとし、途萩島を過ぎたが、金劍宮の社官河口又次郎は川符の歸途醉に乗じて之を罵詈した。佛眼坊の徒之を聞いて甲冑を帶し、宮尻の坂口に赴いて仲間を助勢せんとしたが、勝重坊連海の和解によつて事なきを得た。稱光天皇應永三十年五月廿五日本宮所屬利佐谷の神人が、金劍宮の敷地で争端を開いた時には、本宮の衆徒金劍宮に迫つて四方より之を圍んだ。金劍宮の執當藤原院に死し、傷者殆ど算なかつたが、本宮方は一人も害せられなかつた。

れ等のことは白山宮莊嚴講中記録に見える例であるが、實際の反目闘争は常に絶えなかつたであらうし、金劍宮方が多くは弱勢であつたと思はれる。

キンケンクウ 金劍宮 石川郡松任西新町の郊端に鎮座する。式内等舊社記に、『金劍宮神社。松任村鎮座。舊傳云。往古勸諭白山御子神金劍宮之神靈也。或稱八劍宮。』とある。慶安元年から山伏觀藏坊、次に彌勒院などが奉仕したこともある。明治に至り社俗を廢し、七年金劍神社と改めた。

キンコ 琴湖 ↓イマエガタ 今江瀨。

キンコウジ 琴江寺 珠洲郡栗津に在つて、臨濟宗法燈派に屬する。貞享の書上に、『當寺開基者、昔四辻大納言當國へ下向居住に付爲牌所建立。則琴江院の號を賜ふ。本尊者觀音、京都東山清水と同木同作。開山者京都東福寺大明國師弟子通傳和尚に而有之候。』とある。

キンゴジヨウ 金吾城 ↓シキジャマジヨウ 敷地山城。

ギンザ 銀座 加賀藩の銀座と吹座とは、もと同一主任によつて兼管せられたるが如く、前田利家の時後藤用助と矢田主計とを權用したるに起る。元禄三年金星丈仁の書付に、『秀吉公の時權現様と大納言様と被仰合、後藤一人宛拜領被成度旨御訴訟に付、關東へは後藤庄三郎、加州へは後藤用助罷下りける處、矢田主計と申者を相所に被仰付、銀座相動心。』と見え、淺野屋次郎兵衛中緒權に、『後藤用助・矢田主計と申者金銀の吹座被仰付。』とあつて、この兩人が銀座でも吹座でもあつたことは後藤用助の書付にも見える。後藤用助は